



生活クラブ風車



夢風News

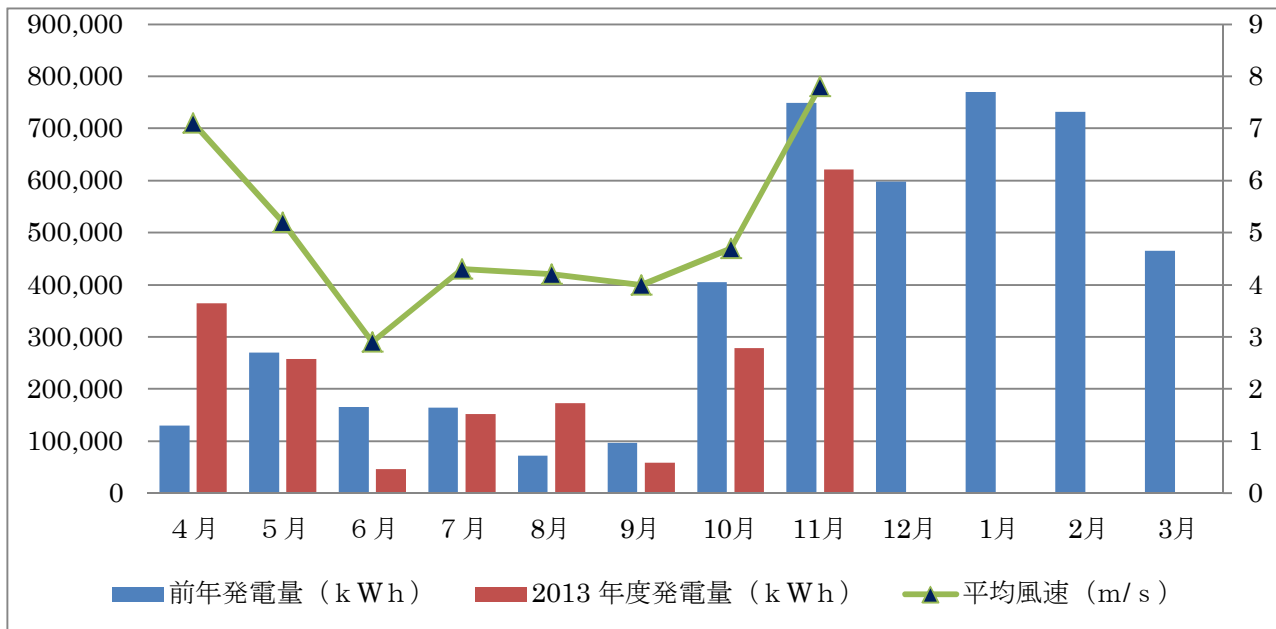
Vol.18

●発行 2013.12.15 一般社団法人グリーンファンド秋田

●発行責任者 半澤彰浩（代表理事） ●編集責任者 鈴木伸予

■ 風車の発電実績 ■

	発電量 (kWh) 【前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)		発電量 (kWh) 【前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)
4月	364,062 【281.0%】	7.1	25.4	10月	279,036 【68.9%】	4.7	18.8
5月	257,970 【95.6%】	5.2	17.4	11月	620,896 【82.9%】	7.8	43.3
6月	46,516 【28.1%】	2.9	3.3				
7月	151,543 【92.0%】	4.3	10.2				
8月	173,115 【241.3%】	4.2	11.7				
9月	58,922 【61.3%】	4.0	4.1				



- ・11月は気圧の谷や寒気の影響で雨または雪の日が続き、冬型の気圧配置になり、風も平均風速7.8m/sと強くなってきました。
- ・このため風車の発電量も10月の2倍以上の62万kWhとなり、設備利用率43.3%となりました。

■ にかほ市と生活クラブとの連携推進協議会設立総会 報告

11月30日（土）、にかほ市金浦勤労青少年ホールにて、にかほ市と生活クラブ東京・神奈川・埼玉・千葉、グリーンファンド秋田との連携推進協議会設立総会を行いました。

協議会の目的は、地域間連携による持続可能な自然エネルギー社会づくりに向けた共同宣言にもとづき、継続的に協議を行うために協議会を設置し、生活クラブ風車の普及啓発の検討、にかほ市と生活クラブとの交流を広げるための検討、特産品や農・水産物の取り組みの検討、そのほか生活クラブとにかほ市との連携強化をすすめるための検討をすすめることです。

総会終了後、第1回幹事会を開催し、総会で選出された役員の中から、共同代表幹事として、にかほ市の須田正彦副市長、生活クラブ神奈川の半澤彰浩常務理事を選出しました。監事として、にかほ市の斉藤均総務部長、生活クラブ神奈川の大石高久専務理事を選出しました。

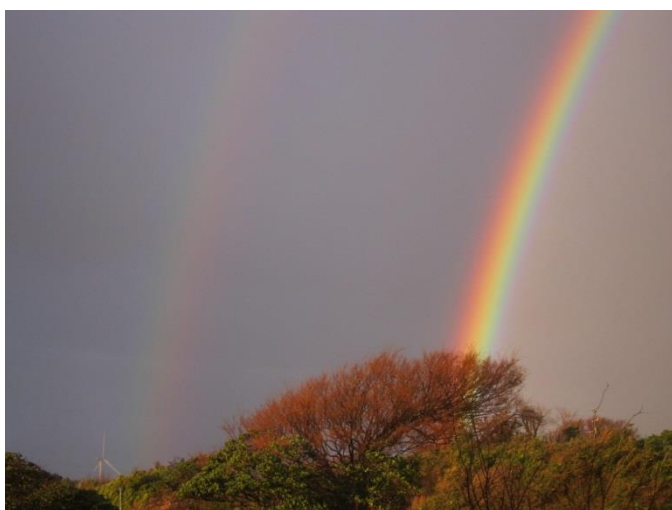
また、幹事会では、次年度に向けた交流企画について、風車の里セット実験取組と今後の取り組みについて、にかほ市の子ども向け普及啓発について、などの協議を行いました。

協議会の設立は、にかほ市と生活クラブとの連携の具体化を進めていくはじめの1歩です。これから風車を縁とした交流や連携がどんな形で実現できるか楽しみです。

（協議会事務局 GF 秋田 鈴木伸予）



前列右から、阿部千春観光課主査（佐藤正産業建設部長代理）、須田正彦副市長、半澤彰浩神奈川常務理事、赤坂禎博東京常勤理事、鈴木伸予GF秋田、後列右から、佐藤均観光課長、齋藤均総務部長、小林孝行埼玉組織部長（重盛智専務理事代理）、山本裕一郎千葉常務理事、齋藤義行企画情報課長



(^o^)協議会の開催中に虹ができました。

思わず会議を中断して皆で窓の方へ。

二重の虹です。外側の虹が生活クラブ風車の付近から立ち登っています。

この協議会が虹のように明るくすすむ予感を皆で感じました。

■ 地域の資源を地域で活かす～これからの秋田の再生可能エネルギー～ ■

秋田県における第1号市民風車「天風丸」が誕生して10年を迎えました。市民風車10周年の記念とこれからの秋田の自然エネルギー開発を考えるフォーラムが12月1日秋田市で開催されました。

第1部「事業化のプロセスと課題」では、名古屋大学の丸山先生より、地域の未来に誰が責任を負うのか？再エネ開発によるメリット・デメリット、まちづくりとの整合性を考える必要がある。

そのためには、地域で再エネ事業をどう支えて地域に根付かせていくか、誰がやるかではなく何をやるかが大事、地域にどんなメリットがあるか、などの点で地域密着型である必要があるという趣旨提案がありました。

続いて、秋田県における市民風力発電の10年として、ウィネット秋田の大谷氏の報告があり、その中で風車を建てるという事は木を植えることと同じで、その風車が地域の中に根付いて地域に活かされるよう「風車を植えて育てる」と言う言葉が強く印象に残りました。

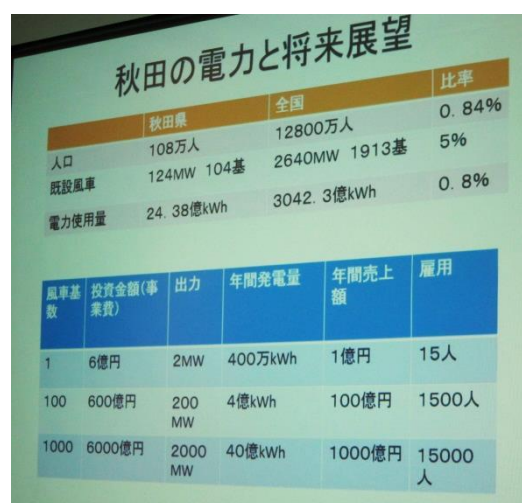
第3部では、これからの秋田の再生可能エネルギーとして、活発な意見交換がなされました。会場からは、Made in 秋田の風車にチャレンジしたい。再エネを雇用創出につなげて秋田を元気にしたい。秋田の洋上風力を国のエネルギー政策として推進するべき。地域の資源は地域に資するべき、そのために良きパートナー（事業者）をどう選んでいくかが大事で、そのための方針や条例などの検討も必要ではないか。など、秋田の人々の熱い思いとパワーを実感しました。



丸山康司氏

鈴木亨氏

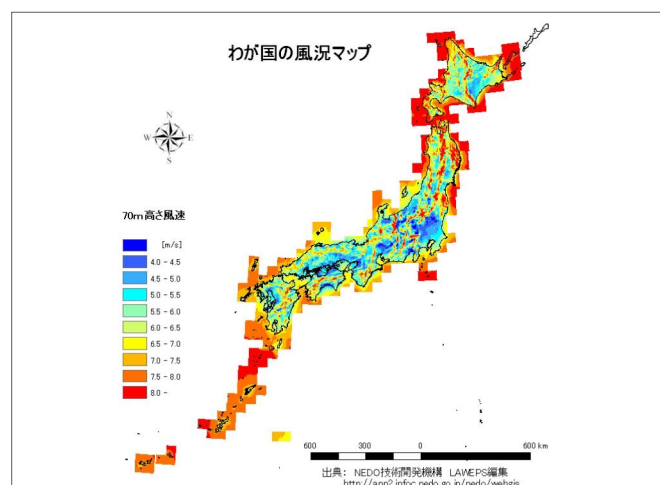
大谷明氏



風車 Q and A

Q. 風力エネルギーで私たちの暮らしを支えられるだけ十分な量がありますか？

A. 風力発電の源は地球に降り注ぐ太陽の恵みです。これは約1分半で世界中の1年分の全エネルギー量に匹敵する莫大なエネルギー量です。だから風力エネルギーの賦存量は陸上だけで7.0×10⁴TWh/年(世界の電力需要の4倍以上)、洋上はその約10倍もあり、天然ガスや石油のように今後数十年で採り尽くす恐れはありません。既にスペインとデンマークでは電力需要の10%以上、ドイツ、ポルトガル、アイルランドでも5%以上が風力発電でまかなわれています。



にかほの風だより ～こんなに感動がいっぱい！にかほの観光～ ⑥

皆様、風のふるさと「にかほ市」も、いよいよ冬の食材が食卓を賑わせ始めました。
今回の情報プレゼンターは、なんと再登場！観光課、今野が頑張ります。



皆様もご承知のこととは思いますが、冬の秋田といえば、日本海の荒波のもと「雷様」とともにやってくる「季節ハタハタ」。季節ハタハタは、産卵するために沿岸部に接岸する訳ですが、皆様の「夢風」が設置されているすぐそばの海岸にも、産卵にやってきます。そこで季節ハタハタ漁の網にかかり、私たちの口に入るといふ、昔からのシステム？で、私たちは自然の恩恵を得ている訳です。

さて、これからの季節は、どこの食卓でも、塩味ベースの「しょつつる鍋」、お好みで塩をふつての「焼きハタハタ」、素のまま茹でて醤油をかけて etc…。様々な調理方法で冬の味覚を楽しんでいます。

ハタハタは、年中水揚げされる訳ではありませんが、秋田県で水揚げされる年間漁獲量の1、2位を争うほどであり、この時期で一気に水揚げされます。

こういったことから、冬の保存食としても昔から重宝され、麴と漬け込んだ「ハタハタ寿司」は絶品です。年末の贈答品として、またお土産として、もってこいのこの逸品は、にかほ市のみならず、秋田の「食」の顔として親しまれております。2月頃には地元の酒蔵「飛良泉（ひらいずみ）」の新酒も出来上がり、ハタハタ寿司をつまみに「一杯」は、まさに、にかほ市民にとっては至福の時です。

にかほ市は、四季折々の材料を旬な時期で料理し、食し、振る舞い、年中幸せな時間？を過ごせる地域です。ぜひ、一度は皆さんに来ていただき、そして郷土料理を堪能してもらいたいものです。



丹誠込めて作られた「ハタハタ寿司」

次回予告！

南極とにかほ市の関わり（なぜだ？）について、紹介したいと思います。

※日本海の冬の味覚「鱈」の情報もありますよ！